令和５年１２月２３日　　記録：ジョイナス代表

令和５年度　第１回　風北ジョイナスの集いメモ

【実施日時】令和５年１２月２３日　土曜日　１０時００分~１１時５０分

【会　　場】　ふれあいカフェ　クルトコ　大津ヶ丘商店会

【参　加　者】　＊敬称略＊　　１２名

（柏市消防団女性分団分団長　八幡町）

（柏市市民生活部市民活動支援課　地域づくりコーディネーター）

（五條谷区）　（大井区大木戸）　（塚崎２丁目自治会）

（大津ヶ丘第一住宅管理組合）　（大井区舟戸）　（大井区井堀内）

（高柳地区中島込自治会）

オブザーバー：（風早北部地域ふるさと協議会会長）

（風早北部地域ふるさと協議会防犯防災部部長）

見学：（地域「情報防災」プロジェクト　柏市市民公益活動団体　防災アドバイザー）

【議　　題】

（１）「東日本大震災を経験して」　講話：ジョイナスメンバー

（２）３月予定の学習会「救命救急講習」について

＊日程の確認と詳細

（３）作ってみよう！

（４）その他（情報共有）

＊今後の内容検討（皆さんからの意見で未検討になっている事項）

・子ども、一人暮らし、高齢者を考える防災活動

・あなたならどうする？を女性目線で作成してはどうか？

・災害時に怪我をしない取り組みについて

【メ　　モ】

※自己紹介、防災クイズのおさらい、避難所開設手順の紹介後、議題について意見交換

（１）「東日本大震災を経験して」　講話：大橋和江さん　（いわき市にて震災を体験）

２月にオーストラリアで地震があり、なんとなく心配があった。震災が起こる 2～3 日前から、何度となく揺れる感じがしていて、震災当日は、朝から薄曇りの空で、気持ち悪い感じと違和感があった。

その日は､お祝い品を買うために､バスで20分ほどのショッピングセンターにて買い物を済ませ、帰ろうと１４：５０発のバスを待っていた。バス停には、15～6 人ほどが並んでいた。

すると突然アラートが一斉に鳴り出し、縦横に揺れ、自分が弾んでいるような感覚で、立っていられない状況となり、その場に座り込んだ。ガラスが割れる音、瓦が落ちる音、悲鳴が聞こえ、凄い土埃が立ち込めていた。何が起きたのか、起きているのか分からない状況となった。

揺れが収まるのを待っていると、「バスに乗りますか？」と運転手が声を掛けてくれた。会社まで戻るので、乗せてくれると言う。
戻れるところまで行こうと、バスに乗り込んだ。バスは、揺れが続く中、地割れを避けながら、走り、20分の道のりを１時間かけて走った。車窓からは、レンタルビデオが崩れ落ちる様子やガラスが割れる瞬間が見えていた。
通常のバス停下車ではなく、バスの帰路に合わせ途中下車となったため、さらに歩いて自宅を目指す。
　団地に着くと、団地の人が固まって過ごしていた。どんな状況か分からず、皆で話していると、次第に辺りは薄暗くなり、そこで、電灯が点いていないことに初めて気がついた。暗くなる前に部屋に戻ろうと、みんな自宅に戻ることにした。４階の自宅につき、玄関を開けると、部屋は真っ暗で、ランタンの明かりを頼りに部屋に入った。転勤族のため荷物は最小限にしていたこともあり、家具の転倒は無かったが、冷蔵庫のコードはちぎれ、反対側の壁まで移動していた。震度５で、ブレーカーが落ちる設定をしていたため、火災は免れた。安全装置を設置していなければ、火災が起きていた状態である。
　その日は、夜通し揺れ続け、アラートもなり続けていた。灯油もあったが、危険を感じストーブは、つけずに過ごした。服を着こみ、更にコートを着て過ごす。ラジオで情報を取りながら、怖さで一睡もできなかった。
　２日目：朝、隣の方と避難所（徒歩１０分程の所に開設されていた）に行ってみたが、人であふれ、入る余地はない感じであった。避難所として機能しておらず、トイレも長蛇の列となっていた。並んでも無駄と考え、帰ることにした。途中、「公園のトイレが使える」と聞き、公園のトイレを利用した。そのトイレは、汲み取り式の簡易トイレで、雨水を使っている為流せる状態だった。
　何か食べるものはないかとコンビニに行ってみるも、既に食べ物は無く、置いてあるのは文具のみとなっていた。仕方なく家に戻り、納戸を見たが、保管してあった非常食も期限切れ、ガス、電気は使えず、カセットコンロも怖くて使えず、カロリーメイトを食べて過ごした。
　その後、歩いて１０分ほどのドンキへ行き、給水車の対応に備えて運ぶものを買いに行った。ポリタンク（１８ℓ）があり、２個、フタつきゴミ箱、紙おむつを購入した。
　食事は、近所の方とある物を持ちより、カセットコンロを使って、外で食べた。洗うものは、公園で洗った。避難所もバタバタで、支援物資のおにぎりも２人で１個の状況だった。
　３日目：物資は届かず。津波によりアクアマリン福島は飲み込まれてしまったことを知った。
　４日目：夫と連絡が取れた。夫は無事だったが、車は流されたと聞く。
　車は前任地の青森で購入したもので、ローンもあり、そのディーラーが持ち主であったため、罹災証明は取ったものの、残りの金額は払わなければならず、銀行も機能していない状況で、お金をおろせない。一年以内ならと待ってもらうことができたので、半年くらいかかってディーラーに支払い、名義変更を行った。罹災証明で申請をし、お金は貰ったが、一部の足し程度。中古車ならととりあえず購入。地震保険もでない状況だった。
　ラジオで原発の爆発を知る。人も散っていった。ドンキでの買い物も人数制限があり、３時間待ちの状態。さらに１時間待って入るも、何もない状態で、紙おむつとおしりふきを買って帰ってきた。手続きの中で、被ばく検査も受けた。

昼間は公園トイレ、夜は紙おむつを使用した。初めは違和感があったが、仮説トイレの劣悪な環境（共同、匂い、清潔感皆無）を考えれば、公園トイレ、紙おむつの方が何倍も良かった。特に女性の共同利用に関しては、注意が必要だった。共有トイレは、明るいところではなく暗い場所、人目につきにくい場所に置かれることが多いため、危険もある。

高速バスが走るようになり、神奈川にいた息子の所に一時避難したものの、２～３日後に支援物資の振り分け、配布、炊き出しの手伝い依頼の連絡がはいり、戻ることとなる。２週間位たってようやく物資が届くようになった。市からも米やトン汁の配給あり。

いわきに戻り、体育館にて仕分け（男女用品の仕分け、１軒２ケースの水の分配など）や回収の案内（拡声器を使って回る）を行った。仕分け手伝いの連絡がきたのは、４月より班長の役回りが決まっていたこと、前任者の転勤が決まっていたため、繰り上げて動くこととなったためである。大変だったし、何故？と言う思いもあったが、そこで集まった方と一緒に活動する中で、人と関わり、仲良くなれたこと、学ぶ事も多く、役立つ情報をたくさんもらえたことはとても良かったと思う。夫と再会したのは、震災から１ヶ月位経った頃である。

＊会社が県営、市営団地を借り上げ、社宅としていたので、物資が、団地単位で入り、その仕分けと分配を班長等の役員が集まり行っていた。

４月１１日、福島を震源に２度目の地震があり、そこからまた、水が遠のき、ガス、電気、水の復旧まで２～３ヶ月を要することとなる。復旧まで、自衛隊のお風呂を利用。曜日が決まっているので、入れない時は、拭くだけとなる。髪が洗えないのはとても辛かった。

当たり前が無い状況が続くなか、揺れの怖さから、ドアは少し開けて過ごした。エアコンが落ちてしまった（錆びによる支えの劣化）家や荷物の散乱等の話を聞き、荷物が無い方が良いと思った。

落ち着いてきたころ、婦人会の方たちの勉強会に参加し、また来るかもしれない災害に備えるための方法を学ぶことができた。それは今、サロンに来る方達との交流の中で伝えたり、会員の方へのお土産として、防災品をセットにして渡したり、災害を考える取り組みとして役立っている。

＊別紙資料

・水を入れる容器は、欲張って大きいものは✖重くて運べない。
・いつも食べている物を多めに準備する。ローリングストックで準備
・ペットボトルで水を冷凍➔停電時、それを冷蔵場所に入れることで保冷効果有り。
・冷凍庫は、停電時、アルミ保温シートを被せることで、解凍を遅らせることが出来る。冷凍庫はパンパンにしておくとよい。
・尿トリシート、おりものシート、液体ミルク、ペットシート、紙おむつ等有効。実際に使っておくことも大事。
・避難時の工夫➔ボールとタオル、風呂敷を使った簡易ヘルメットで頭を守ろう！（実例より）

サロンでは…

・補助金年間３万円の予算と参加者２００円の参加費を使い、参加者に防災を考えたお土産を渡している（普段使い出来るようコンパクトに防災ポーチを作成する）

・アレルギーや高血圧等、健康を明記するカードがあると良いと考えている

（２）３月予定の学習会「救命救急講習」について

・日程調整、消防署への連絡を行い、日時と場所を決定する

（３）その他

■今後の内容検討（皆さんからの意見で未検討になっている事項）

・子ども、一人暮らし、高齢者を考える防災活動

・あなたならどうする？を女性目線で作成してはどうか？

・災害時に怪我をしない取り組みについて